

塩江温泉郷観光活性化事業（塩江温泉郷観光振興事業・附属医療施設(塩江分院)整備事業）

日常から離れた時間の中で、感謝と人の温かみを感じる場づくり

創造都市推進局 観光交流課 観光エリア振興室
病院局 塩江分院事務局 附属医療施設整備室

令和5年6月

塩江地区（塩江温泉郷）を取り巻く現状

約1,300年前に名僧行基が発見したと伝えられる「**塩江温泉郷**」は、歴史ある湯治場で、高松市南部の自然豊かな中山間地域の塩江地区にあり、「高松の奥座敷」とも呼ばれています。

「塩江温泉郷」は、国際線が就航する高松空港から車で約15分、高松市中心部から約25km（車で30～40分）の距離にあり、外国人が訪日旅行で体験したいこと**—自然や風景、料理、温泉—**があり、市民の**癒しの場**ともなっています。

一方で、地区の人口減少、高齢化が進んでおり、生活環境の維持や観光の担い手確保が困難となりつつあります。

また、旅行ニーズの多様化や、施設の老朽化等により、**旅行者・来訪者が年々減少**し、宿泊・観光施設が閉鎖するなど、**地区全体の活気の減退**が懸念されています。



価値の高い「塩江温泉郷」に向けた取組の推進

これらの課題の解決に向け、交流人口の拡大を図るべく、高松市は、地域住民・事業者との対話、意見交換を重ね、専門家のアドバイスを受けながら、**平成29年3月**に「**塩江温泉郷観光活性化基本構想**」を策定しました。



— 塩江温泉郷の目指すべき「**ありたい姿**」（ビジョン） —
美しい川と緑あふれる山々、歴史ある温泉資源等を活用することで、「日常から離れた時間の中で、感謝と人の温かみを感じる」場所（場づくり）を目指します。

この基本構想に基づき、**ビジョンを共有**し、そのビジョンに向かって、塩江温泉郷内・外の事業者・地域住民・行政が適切な役割分担の下で協働しながら、**地域固有の観光資源を磨き上げ、魅力を最大化**する取組を進めています。

現在、高松市では、**集客の中核的「場」となり**、全ての民間観光施設に波及する「**集客の補完**」機能を担うエリアの整備として、**令和2年11月に「高松市塩江道の駅エリア整備基本計画」**を策定し、国道沿いの立地を生かした、塩江温泉郷の顔、玄関口（ゲートウェイ）をつくる、「**塩江道の駅エリア整備事業**」に取り組んでいます。





新しく付け替える橋を渡った先の右手に「道の駅」、左手に「医療施設」を整備し、**持続可能な観光と生活のまちづくり・地域づくりの拠点**とします。

道の駅と一体的に再整備する「医療施設」は、**引き続き、みんなの病院との連携**をとりながら、**地域の拠点医療施設としての機能**を果たします。

また、道の駅には、バス停を一体整備し、**交通拠点、交通結節点の役割**を果たします。

「塩江温泉郷の顔」として

新しい道の駅は、「高松の奥座敷」と呼ばれる当地の歴史を受け継ぐデザインで、**既存の「道の駅」と「行基の湯」の機能を、継承・統合、拡張・強化**し、新しい道の駅の2階に「温浴施設」を、1階に「情報発信コーナー」、「飲食・物販スペース」、「ワーケーションブース」などのほか、「地域活動・地域交流スペース」を、一つながりの建築として整備します。

建物には「**塩江産の木材**」を活用し、魅力的な木の空間とするほか、川沿いの遊歩道や、温浴施設から眺める山の緑など、自然を感じられる空間づくりを進め、**訪れたい道**の駅をつくりま

す。「新しい道の駅」を核として、周辺観光施設や飲食店、温泉ホテル・旅館、「内場・奥の湯エリア」、「花川エリア」など、特徴ある各所、各エリアへと足を延ばす拠点、「**塩江温泉郷のゲートウェイ**」としての機能を高めます。



建設地の昭和初期の風景



昭和40年頃の温泉通りの様子

【写真提供】塩江町歴史資料館



新しく整備する道の駅と医療施設

オンリーワンの価値を持つ道の駅へ

美しい川と緑あふれる山々の豊かな自然に抱かれた、歴史ある温泉地「塩江温泉郷」のポテンシャルを生かし、「**自然、歴史、風土、文化等を継承する『まちの拠点』**としての道の駅」、「**塩江温泉郷・人々とのふれあい・塩江の自然体験の玄関口（ゲートウェイ）**となる『**にぎわい・交流の拠点**』としての道の駅」、「**良質な泉質、湯治場としての機能、医療施設との連携、食の提供等による『健康づくり・リフレッシュの拠点』**としての道の駅」をテーマに、塩江地区の将来を見据えた**持続可能なまちづくりの拠点**として、ここにしかない**オンリーワンの価値を持つ道の駅**、観光の目的地として選ばれる、「**塩江温泉郷の顔**」となる道の駅の整備を進めています。